

# 第7回栃木活性化サロン テーマ「地域資源を活用した栃木県の活性化について」 ～農業の6次産業化を踏まえて～

◇ 平成31年1月30日開催

◇ ゲストスピーカー 関東経済産業局 経営支援課長 杉山 晴治氏

「地域資源活用事業及び農商工連携事業の活用事例について」

## 1. 地域産業資源活用事業

- 地域の『強み』である「鉱工業品」「農林水産品」「観光資源」等の地域産業資源を活用して、商品・サービスの開発・販路開拓に取り組む中小企業に対して、法律に基づき計画を認定。認定企業に対し、ふるさと名物応援事業補助金や政府系金融機関による融資制度、信用保証の特例等の支援を実施する事業。
- 栃木県内では、400件を超える指定地域産業資源の中から27事業を認定。

《県内の事例》

- (株)野州たかむら(茂木町)では、県内で生産された農産物(いちご、ゆず、ブルーベリーなど)を原料に、昨今の市場ニーズに合わせた形状でのキャンディを自社ブランドとして開発及び販売している。新たなマーケットとして海外市場等の開拓を進めていく計画のなかで、ふるさと名物応援事業補助金を活用して専門家からアドバイスを受けたことにより、情報収集にかかる時間が短縮することが可能となった。

## 2. 農商工等連携事業

- 中小企業の経営の向上及び農林漁業経営の改善を図るため、中小企業者と農林漁業者が有機的に連携し、お互いの経営資源を持ち寄り、新商品・新サービスの開発、生産及び需要の開拓を目指す計画を法律に基づき認定。認定企業に対し、ふるさと名物応援事業補助金や政府系金融機関による融資制度、信用保証の特例等の支援を実施する事業。
- 栃木県内では、16件が認定されている。

《県内の事例》

- (株)横倉本店(宇都宮市)は、「宇都宮カクテル倶楽部」のプロのバーテンダーの監修による栃木県産の果物や野菜を使ったカクテルの開発を企画。カクテル製造に関しては、リキュール製造のノウハウを保持する鳳鸞酒造(株)(大田原市)と、原料に関しては、果実や野菜をジュースに加工する技術に優れた荒牧りんご園(宇都宮市)と連携するに至った。生産者と加工者が連携し事業を進める上で、中小企業基盤整備機構のフォローのもと事業計画を整理することでやるべきことが明確になった。認定取得により本取組みが広く認知され、また、補助金の活用によりスピード感をもって商品開発や販路開拓を進めることが可能となった。